

佳作

## ボランテアのおじさんたち

茨城県 笠間市立笠間小学校三年 宮沢 倅平

ぼくは、夏休みの始めに、とうせんした竹ざい工水でっぼう教室にさんかしました。その日は、市の社会ふくしきようぎ会に午前九時半にしゅう合でした。朝からあつくて、

「外で竹の水でっぼう作れるのかな」と少し心ばいになりました。

うけつけをおこなうと、すずしいまち合い室に通されました。早い時間だったので、ゆっくりとじゆんびが出来ました。始まりの時間がすぎても、どんどんまち合い室に人が入ってきました。すると、ボランテアのおじさんたちが十人くらい入ってきました。リーダーのおじさんの話では、

「ていいん三十人だったけど、ことわるごとがかわいそうだから、きぼうしゃみんなうけ入れたよ。今日は百人で作ります。」

とのことでした。つきそいも入れると二百人くらいで、みんなおどろいていたように見えました。

やっと、水でっぼうを作るときになりました。たて物の外に出て、用意されていた竹やようじ、わゴム、スポンジ、ぬのを使って、ボランテアのおじさんたちの言う通りに作ぎようをすすめていきました。水が出る所を作るのに、きりという道具をはじめて使いました。かんたんにあなが開くことがすごいと思えました。出来あがった人から、バケツの水を水でっぼうですいこみ、おたがいに当て合いをしました。顔やふくが水でびしょぬれになり、あついい日だったので、気持ちよかったです。ボランテアのおじさんたちは、みんなにこにこした顔でぼくたちを見ていました。楽しいのはぼくたちなのに、おじさんたちもうれしそうだったので、ぼくはその時はじめて、ボランテアについて考えました。

家に帰ってから、今日のボランテアのおじさんたちの『わだちの会』について、調べてみました。おじさんたちは、ぼくがさんかした教室のほかにも、たくさんの教室のお手伝いをしているようでした。ボランテアの意味を調べてみたら、「人と人とのキヤッチボール。人とのつながりをゆたかにしてい

く」ということでした。おじさんたちが、

「赤い羽ねぼ金もよろしくね。」

と言ったのを思い出し、赤い羽ねぼ金についても調べてみました。「あつめられた地いきで活用され、やく七十パーセントがあつめた地いきで活用され、やく三十パーセントはと道ふけんのはんい内で活用されます」とありました。

ぼくが住んでいる市では、子ども向けの教室だけでなく、大人やしょうがい者の人たち向けの教室もあるようです。色んな人が住みやすい町になるためには、このようなボランティア活動は大切だなと思いました。ぼくも大きくなったら、みんなの役に立つボランティアをしてみたいと思いました。